

卒業研究論文作成の手引 (2018. 4)

中央大学文学部社会学専攻
中央大学文学部社会情報学専攻

この手引は、卒業研究論文について、求められるレベルや評価の基準を示したものである。大学における学業生活を締めくくるにあたり、その総決算ともいえる論文を書くための心構えとして、「襟を正して」よく読みこみ、しっかりと理解してもらいたい。

なお、念のためにこれまでの経緯について触れておく。中央大学文学部社会学専攻および社会情報学専攻は、「卒業論文作成の手引」を制定し、卒業論文（以下、卒論）が満たすべき要件を定めてきた。しかしながら 2012 年度入学生からは、卒論が必修ではなくなった。このため、卒論を書かずに“卒業研究論文のみ”を書く学生については、それが旧来の卒論の代わりになるので、充実した内容と整備された形式が求められることになる。この手引は、そのためのものである。

〔I〕 心得

卒業研究論文は、大学における学習・研究の総決算として、学生自らが、指導教員の助言を受けつつ、熱意と真摯さをもって執筆する。

〔II〕 準備

研究題目の決定、進め方などについて指導教員の助言を受けるとともに、必要に応じて過去の卒論、卒業研究論文を参照し、必要な諸届を提出する。

〔III〕 文献検索

研究題目に関係のある先行研究文献やデータを、図書館、インターネットその他を通じて収集する。文献検索については、中央大学図書館が契約しているデータベースや電子ジャーナルを活用する。

〔IV〕 内容

問題意識を明確にするとともに、先行研究を必ず調査して評価し、自分の研究上の立ち位置を明確にする。研究の方法について記述するとともに、その結果何が得られたかを提示する。得られた結果に基づいて、分析・考察を施し、結論を導く。今回の研究の問題点や残された課題について述べる。

〔V〕 構成

「はじめに」（問題の所在と自らの問題関心の説明）、「研究の対象と目的」「先行研究の分析」「研究方法の説明」「研究の実施とその結果の説明」「結果の分析と考察」「結論と今後の課題」といった章立てにする。調査の原データ、調査票、バックデータ、集計表などは、巻末資料として扱う。最後に参考文献、引用文献、参考文献のリストを記載する。また、指導教員等研究でお世話になった人たちへの謝辞を記す。

〔VI〕 表現

論理的で歯切れの良い日本語で書く。美文である必要はない。「である」で書く。段落

の最初は、一字分、字下げする。接続詞は原則としてひらがなを用いる。なお、論文全体の分量は、原則1万字以上とするが、ゼミによってはそれ以上の場合もありうる。

〔VII〕 引用・注

引用については、引用文を地の文と明確に区分する。また、必ず出典を記載する。個々の引用文は、必要最低限の量にとどめる。注は、ページ脚注、巻末脚注のいずれかとする。併用することも認める。

〔VIII〕 図・表

図や表には、必ず、番号と表題を付ける。その際、図と表では、番号を分ける。図の番号とタイトルは、図の下に、表の番号とタイトルは、表の上に記す。図表を引用した場合は、必ず、出典を記す。

〔IX〕 評価のポイント

「形式」と「内容」の両面から評価する。形式については、1) 文章の論理性、2) 誤字脱字の少ないこと、3) 章構成の妥当性、4) 引用の仕方を含む著作権法の遵守状況、などから評価する。内容については、1) 独創性、2) 全編を通した論理的首尾一貫性、3) 文献の解釈の妥当性、4) 研究方法の適切性、5) 結論の納得性、などから評価する。

〔X〕 助言ならびに個別指導

指導教員の助言を積極的に受けること。また、指導教員の個別の諸指示に従うこと。

〔XI〕 グループ研究

グループ研究の成果物が満たすべき基準についても、原則としてこの手引を適用する。

以上